

## (仮称)大田区子どもの貧困対策に関する計画の策定 これまでの進捗について

厚生労働省調査では、子どもの貧困率は16.3%（2012年）と推計され、先進国の中でも厳しい状況であるとされています。

区は、おおたの子どもたちが、自分の可能性を信じて前向きに挑戦し、笑顔で未来を切り拓いていけるよう、計画を策定します。計画期間は5年間（H29～H33）です。

### 大田区のめざす姿

子どもたちの将来がその生まれ育った環境によって左右されることのないよう、地域力を活かし必要な環境整備と教育の機会均等を図り、子どもたちが自分の可能性を信じて未来を切り拓く力を身につけることをめざす。

### 大田区の基本的考え方

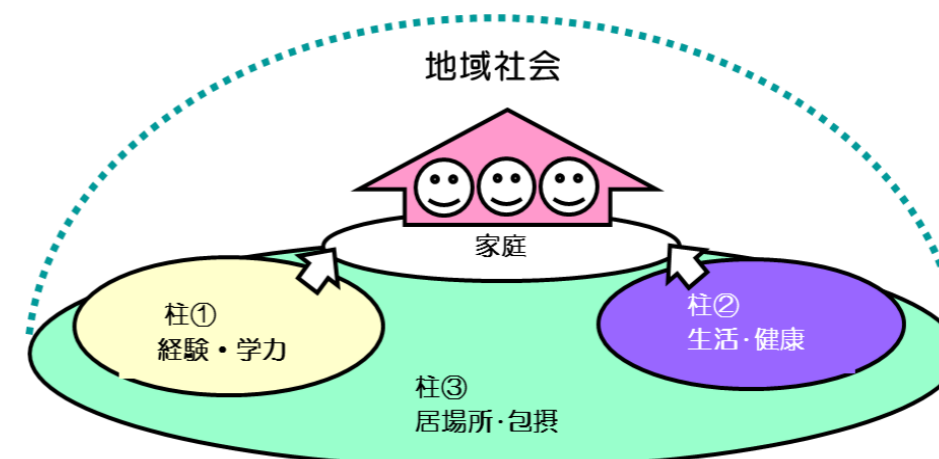
- 大田区における子どもとその家庭の生活実態をできる限り正しく把握します。
- まずは子どもに視点を置き、以下の4つの視点で、生活実態を踏まえた支援展開を行います。
- 「地域共通の課題」として、区民（地域住民）、関係活動団体、企業・事業者と積極的に連携を図ります。
- 地域においては、全ての子どもたちが地域社会から切り離されないよう、社会的に包み込むような支援（＝「社会的包摂」）を実践します。

#### 《4つの視点》

- (1)「気づき・見守る」体制づくり
- (2) 妊娠期から高校卒業時の進路決定までを「切れ目のない支援」でつなぐ
- (3) 自己肯定感の育成と自立の支援により「貧困の連鎖を断ち切る」
- (4) 子どもたちが夢に挑戦できるための「総合的対策を推進」する

### 【参考】3つの施策の柱（イメージ図）

#### 3つの柱で子どもとその家庭(保護者)を支援



#### 柱①「経験・学力」

子どもたちに、良好な学習環境と多様な体験や経験の機会を提供するための施策を展開します。  
学びと経験から生まれた子どもの意欲を、将来の夢につなげることをめざします。

#### 柱②「生活・健康」

暮らしに必要な環境を整え、子どもが健やかに成長するための施策を展開します。  
子どもと保護者の心身の健康を支え、貧困の連鎖を断ち切る力を育てることをめざします。

#### 柱③「居場所・包摂」

子どもとその親が安らげる居場所や、社会とつながりを持てる場を提供するための施策を展開します。  
自分を受け入れ、他人を認められる温かい心をはぐくむことをめざします。

### 計画策定に向けた生活実態調査を実施しました

- より効果的な施策を推進する計画の策定を目的とし、以下のとおり生活実態調査を実施しました（現在分析中）。

#### ■「大田区子どもの生活実態調査」

期間：6月27日から7月7日まで

対象：大田区立小学校在籍の5年生とその保護者／学校にて配布・回収

回収率：76.2%

#### ■「大田区ひとり親家庭の生活実態に関する調査」

期間：7月29日から8月16日まで

対象：児童育成手当受給世帯の保護者2,000名（無作為抽出）／郵送

回収率：45.2%

■区内施設・関係団体へのヒアリング 訪問先：17か所（保育園、学校、NPO団体等）

### 今後のスケジュール（予定）

区民の皆様からいただいた貴重なご回答をもとに、計画策定を進めてまいります。

～12月中旬 素案作成

12月下旬～ パブコメ、区民説明会

29年3月末 計画策定